

## 2019 年度 小委員会活動成果報告

(2020 年 1 月 14 日作成)

小委員会名	ヒューマンファクターによる環境制御法 小委員会		主 査 名：近本 智行 就任年月：2018 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (建築設備運営委員会)		委員長名：持田 灯 主 査 名：長井 達夫
設 置 期 間	2018 年 4 月 ～ 2022 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	ヒューマンファクターによる効果、IT などと組み合わせた実用的な制御法など、より実践的に利用価値を高めた環境構築技術を整備していく ・初年度：事例収集、制御装置などの情報収集 ・2年度：効果検証を検討、環境構築についての設計・制御手法の素案を作成 ・3年度：事例・制御装置などの情報収集、環境構築の設計・制御ガイドを検討 ・4年度：環境構築の設計・制御ガイドを作成、シンポジウムなどで成果発表		
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無		
	主査：近本智行 (立命館大学) 幹事：鶴飼真成 (早稲田大学) (年次途中で長續仁志 (大林組) に交代) 委員：秋元孝之 (芝浦工業大学)、大黒雅之 (大成建設)、大宮由紀夫 (竹中工務店)、小林弘造 (日建設計)、佐々木真人 (日本設計)、島潔 (大林組) (年次途中で長續仁志 (大林組) に交代)、田辺新一 (早稲田大学)、野部達夫 (工学院大学)、橋本哲 (ダイキン工業) (年次途中で西野淳 (ダイキン工業) に交代)、三浦克弘 (鹿島建設)、村上宏次 (清水建設)、横山計三 (工学院大学)、年次途中から委員として鶴飼真成 (シドニー大学)		
設置 WG (WG 名：目的)	2020 年度より「ヒューマンファクターによる設計・制御ガイドライン作成 WG」設置予定		
2019 年度予算	120,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：	

項 目	自己評価
委員会開催数	5 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	別途立ち上げたヒューマンファクター建築刊行小委員会で出版を準備
講習会	なし
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	なし
大会研究集会	2019 年度大会にて OS「ヒューマンファクターを考慮した環境デザイン・制御」を開催
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	なし
目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)	1. 事例収集、制御装置などの情報収集を実施した。 2. 「ヒューマンファクター建築刊行小委員会」で出版を準備した
委員会活動の問題点 ・課題	なし

## 2019 年度 小委員会活動 自己評価

### (中間年度評価・最終年度評価)

総合評価 (4段階評価)	B
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>当小委員会では、2年度（中間年度）として以下の活動を行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小委員会の活動方針の確認、活動内容の検討             <ul style="list-style-type: none"> <li>・小委員会としての活動方針を確認し、年度毎の委員会活動内容を検討した。</li> <li>・小委員会の成果として、3年度から4年度にかけてヒューマンファクターによる環境構築の設計・制御ガイドを作成し、シンポジウムなどで成果発表を行ってゆくことを確認した。</li> </ul> </li> <li>2. ヒューマンファクターに関する情報の収集             <ul style="list-style-type: none"> <li>・委員からの提供された情報を議論した。</li> </ul> </li> <li>3. ヒューマンファクターに関する技術の評価法の検討             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒューマンファクターの取り扱う範囲と、技術の評価法に関して議論した。</li> </ul> </li> <li>4. 見学会             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒューマンファクター建築事例として、point0 marunouchi の見学会を実施した。</li> </ul> </li> <li>5. ヒューマンファクター建築刊行小委員会での原稿執筆と出版の準備             <ul style="list-style-type: none"> <li>・出版物目次は下記の通り。</li> </ul> </li> </ol> <p>はじめに 序文 ヒューマンファクターに至る道 序章 ヒューマンファクター建築事例 第1章 ヒューマンファクター建築のすすめ 1 設備設計論の変革 2 ヒューマンファクターデザインのすすめ 第2章 ヒューマンファクター建築と社会的背景 1 環境共生・省エネのニーズ 2 居住者の健康性への関心 働き方改革へのシフト 3 SDGs と建築設備 第3章 身近なヒューマンファクター 1 暮らしの中の環境選択 2 快適感・温熱感指標とヒューマンファクター 3 パーソナル空調とヒューマンファクター 第4章 人間の行動を考える 1 変動する環境と快適感・温冷感 2 クレームの瞬間をとらえる 3 オフィスにおける執務者の実態 4 オフィスの新しい温熱環境評価 5 人間の行動 第5章 ヒューマンファクターの要素技術 1 環境選択行動を促す技術 2 装置技術：熱・空気・音・光など環境を作る技術 3 制御・センシング技術 4 統合化技術 第6章 ヒューマンファクター建築のこれから</p>

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
  - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
  - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
  - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
  - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。